

一人一人のニーズに応じた授業 国語科 学習指導案

日時	平成20年2月15日(金) 2校時
対象	小学部 男子1人 女子3人 計4人
場所	1階 4年1組教室
指導者	CT 松ヶ野 由美 ST 吉平 英美
段階別	2段階相当

単元名「かるたあそび」

単元について

本単元は、かるた遊びを通して、これまで学習してきた平仮名への興味・関心を広げ、読んだり聞いたり、書いたりする力を高める学習である。
かるた遊びは、平安時代から伝わる日本独自の遊びであり、室町時代にポルトガルより伝わったカドを使う遊びに影響を受けて現在に至っている。今日では「小倉百人一首」など古くから存在するものから、テレビアニメの人気キャラクターをあしらったものまで多種多様なかるたが存在しているが、読み手が、取り手に分かりやすいように読み札を「読み」、取り手が読み札の一字目を「聞く」という遊びの形式は同じであり、老若男女が楽しめる日本のお正月を代表する遊びとして、児童になじみの深いものである。
そこで3学期前半のこの時期にかるた遊びを行うことは、児童にとって季節感を味わいながら楽しめる学習であると考えられる。また、児童の実態に合わせて内容を変更できるなど工夫できる余地も多い。

児童の実態

本学級の児童は、これまで「おはよう」「いただきます」などのあいさつに使う言葉や、「体育館」「滑り台」などの校舎内外でよく利用する場所や遊具の名前、「ひまわり」「あじさい」などの草花の名前を発音したり書いたりする単元を通して、具体物や事象と平仮名を結び付ける学習を行ってきた。しかし、平仮名カドを提示して一字ずつを読ませたところ、一名は五十音を全てすらすらと読めたが、残りの児童はほぼ読むことができたものの、「ぬ」と「ね」などの字形の似た平仮名を読み間違えたり、「さ」を「しゃ」や「た」と発音したりした。また、「つ」を見て「つき(月)」と答えるなど、平仮名を一つの音の単位として理解できていない様子が見られた。
休み時間に、かるた遊びを行ったところ、どの児童も、最初は、読み手が読んだ札を意欲的に探す様子が見られたが、勝敗の差が明らかになってくると意欲がなくなるのか、または五十枚の札が多すぎるためか、次第に興味を失う様子が見られた。

指導観

そこで本単元では、以下のような力を高めることをねらい、かるた遊びの学習を進めることにした。
第一次では、児童が好きなキャラクターのかるたを用いてかるた遊びへの意欲を高める。また「読み手が読んだ札を取る」といった基本的なルールを理解させたり、「読み手が読む間は手を膝の上に置く」といった学級の実態に応じた簡単なルールを工夫させたりすることを通して、全員で楽しく学習していくという意識が高まるようにする。さらに、聞いただけで平仮名の形を思い浮かべることができない児童には、読まれた平仮名のカドを提示することで意欲が持続するように配慮する。
第二次では、一枚ずつの札を扱うかるたの特性を生かし、「ぬ」と「ね」のように形が似ている平仮名や、「さ」と「た」や「しゃ」のように発音を誤りやすい平仮名を抽出して扱い、比較させることを通して、正しい形や発音を意識できるようにする。また、同じ文字から始まる言葉である「はさみ」「はな」などを、教師と一緒にリズムを取りながら読ませることで、一つの平仮名がいろいろな言葉に使われていることや、平仮名は一音一文字であることに気付くことができるようにする。
第三次では、一年間の思い出の写真を提示し、児童に読み札や取り札に単語や簡単な文を書かせ、思い出かるたを作って遊ばせることで学習のまとめとする。これらの活動を通して、児童は平仮名の正しい形や発音に意識を向けるようになる。また、今後、片仮名や漢字を学習する際にも、正しい形や発音を意識して取り組むようになる。さらに、かるた遊びのルールを工夫し、楽しい経験をすることで、将来の社会生活におけるルールの大切さに気付くことにつながる。と考える。

単元の目標

かるた遊びのルールを理解したり、教師と一緒に工夫したりして、友達と楽しく遊ぶことができる。
文字の正しい形や発音を意識したり、平仮名は一音一文字であり、いろいろな言葉の中で使われていることに気付いたりすることができる。
思い出の写真を見ながら、読み札や取り札に単語や簡単な文を書くことができる。

一人一人の実態から目標設定へ



指導計画 総時間数 13時間

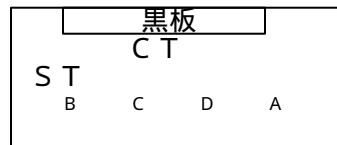
次	主な学習活動	時間	備考
一	「かるたであそぼう」市販のかるたを用いて、ルールを工夫しながら遊ぶ。	5	市販のかるた
二	「かるたをつくってあそぼう」形の似ている平仮名のかるたを作って遊ぶ。「た」と「に」「ぬ」と「ね」「は」と「ほ」「さ」と「き」	4 本時 4/4	自作のかるた
三	「かるたをつくってあそぼう」一年間の思い出の写真をしながら、読み札や取り札に単語や簡単な文を書いて遊ぶ。	4	自作のかるた

指導にあたって

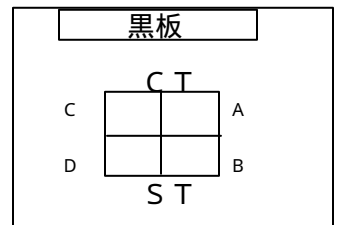
- 子どもたちが今まで読んだ絵本によく登場する「さる」や「さかな」、遊びに活用してきた「さいころ」、算数で学習した「さんかく」などの身近な言葉を札の絵や言葉にすることで、絵カ-ドと平仮名カ-ドを児童自らが結び付けることができるようにする。
- 「さ」から始まる言葉を読み札や取り札にすることで、「さ」の発音や字形を意識できるようにする。
- 発音においては「た」や「しゃ」と、形においては「き」と「さ」を比較させることで、「さ」の発音や文字の形をより深く理解できるようにする。

場の設定・板書計画など
(場の設定)

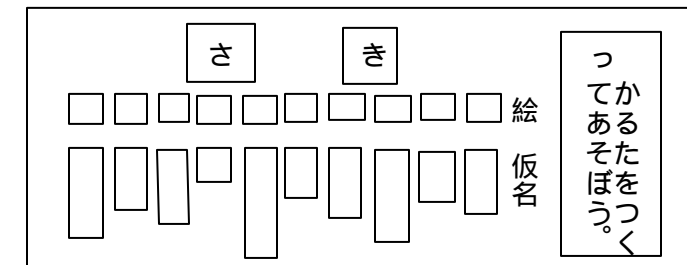
(1) 1~3, 4(1)(2)



(2) 4(3)(4)(5), 5, 6



(板書計画)



本時の実際(40分)

	全体	個人						
目 標	「さ」と「き」の形の違いを意識することができる。「さ」と「た」や「しゃ」の発音の違いを意識したり、平仮名は一音一文字であり、いろいろな言葉の中で使われていることに気付いたりすることができる。							
主な学習活動	<ol style="list-style-type: none"> はじめのあいさつ 絵本の読み聞かせ「とん とん とん」 発声や発音の練習 (1) 大きな声を出す。 (2) 母音表「あいうえい」 本時のめあて かるたをつくってあそぼう。 							
導入 7分	<ol style="list-style-type: none"> はじめのあいさつ 絵本の読み聞かせ「とん とん とん」 発声や発音の練習 (1) 大きな声を出す。 (2) 母音表「あいうえい」 本時のめあて かるたをつくってあそぼう。 							
展開 30分	<ol style="list-style-type: none"> 絵カ-ドと、最初の「さ」や「き」の文字が抜けた絵カ-ドの名前を書いた平仮名カ-ドを見ながら、最初の平仮名を考える。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>魚の絵</td> <td>かな</td> </tr> <tr> <td>隼の絵</td> <td>る</td> </tr> <tr> <td>狐の絵</td> <td>つね</td> </tr> </table> 一文字ずつ手をたたきながら、平仮名カードを読む。 「さ」と「き」の形の違いを意識して、ワ-クシ-トに書く。 かるたの読み札や取り札を作る。 作ったかるたで遊ぶ。 		魚の絵	かな	隼の絵	る	狐の絵	つね
魚の絵	かな							
隼の絵	る							
狐の絵	つね							
終末 3分	<ol style="list-style-type: none"> 本時のまとめ、次時の予告 おわりのあいさつ 							

A(女)	B(男)	C(女)
「さ」と「た」や「しゃ」の発音の違いに気付き、「さ」を正しく発音しようと思えることができる。	「さ」と「た」や「しゃ」の発音の違いを意識することができる。	「さ」と「き」の形の違いを意識することができる。平仮名は一音一文字であり、いろいろな言葉の中で使われていることに気付くことができる。
指導上の留意点		
<p>日直が号令を掛け、声を出してあいさつすることで、学習の始まりを意識できるようにする。</p> <p>子どもたちの好きな作者の絵本を読み聞かせすることで、国語の学習への意欲を高める。</p> <p>遠くの建物や山を意識させることで、大きな声を出そうという意欲を高める。母音表の基本学習で、「あ」行の一つ一つの平仮名を発音させることで、口形を確認できるようにする。</p> <p>CTが絵カ-ドを提示した際に、STが児童に「何の絵かな。」と声をかけて、絵カ-ドに描かれている絵の名前や平仮名カ-ドの一文字目を考えることができるようにする。「さ」と「き」のカ-ドを児童に渡し、該当する平仮名を考えることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">「さ」や「き」から始まる言葉を黒板に並べて掲示する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">「さ」や「き」がいろいろな言葉の中で使われていることに気付くことができたか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">一文字読むごとに、一回ずつリズムをとらせたり、文字の長さによって平仮名カ-ドの長さを変えたりすることで、平仮名は、一音一文字であることに気付くことができるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">平仮名は、一音一文字であることに気付くことができたか。</div> <p>教師が「た」や「しゃ」と発音することで、「さ」の発音を意識できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">「さ」と「た」や「しゃ」の発音の違いを意識することができたか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">「さ」を正しく発音しようと思えることができたか。</div> <p>平仮名の「さ」や「き」を一画ずつ操作して文字を組み立てさせたり、「き」の二画目の色を変えて提示したりすることで、形の違いをより深く理解できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">「さ」と「き」の形の違いを意識することができたか。</div> <p>読み札と取り札の最初の空欄に、「さ」や「き」のどちらかが当てはまるかを、板書を参考にしながら考えさせ、当てはまる平仮名を直接記入させたり、予め平仮名が書かれているシ-ルを貼らせたりして、かるたを完成できるようにする。</p> <p>第一次で工夫したルールを思い出させて、楽しくかるた遊びができるようにする。</p> <p>がんばったことを発表させて称賛したり、予告をすることで、次時への意欲が高まるようにする。</p> <p>日直が号令を掛け、声を出してあいさつすることで、学習の終わりを意識し、達成感を味わわせる。</p>		
個別の手だて <input type="checkbox"/> 重要評価ポイント <input type="checkbox"/>		

木で作った一画ずつを合成させることで、「さ」と「き」の違いに気付くことができるようにする。